マーメイド・ママサークル支援

講師派遣リクエスト用

報告日　　年　　月　　日

サークル名		記入者 連絡先	
希望開催日時			
場　　所			
対　　象			
予想参加人数			
運営スタッフ名			

内　　容

●開催希望の理由

3.11東日本大震災に伴う

復興地子育て応援プロジェクト

mam-aid project

マーメイド

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

目的と使命

3. 11に発生した東日本沖大地震により、被災地では多くの人々が今なお続く原発被害におびえながら、
厳しい環境での生活を余儀なくされる状況が続いています。

その中でも特に

災害弱者と呼ばれる乳児、幼児,未就学児を抱える母親への負担は大きく、多くの助け必要としています。

震災から'100日目'となる6/19を節目として
『未就学児童及びその子らを抱える母親』の支援を行うプロジェクトをスタート

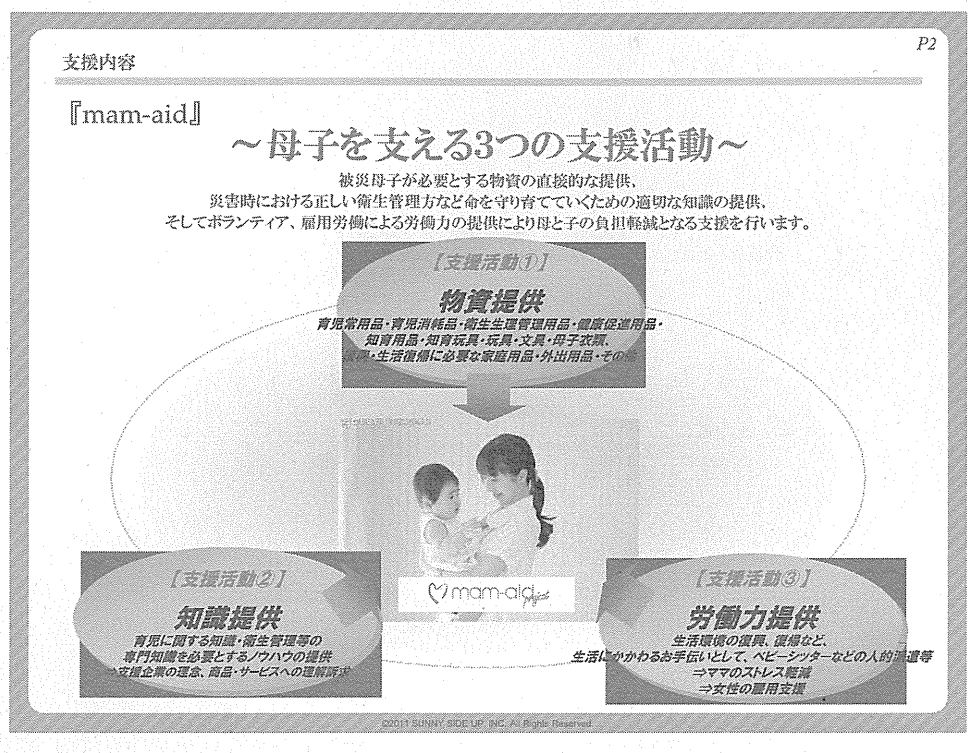
※状況によっては小学校低学年8～9才も含む

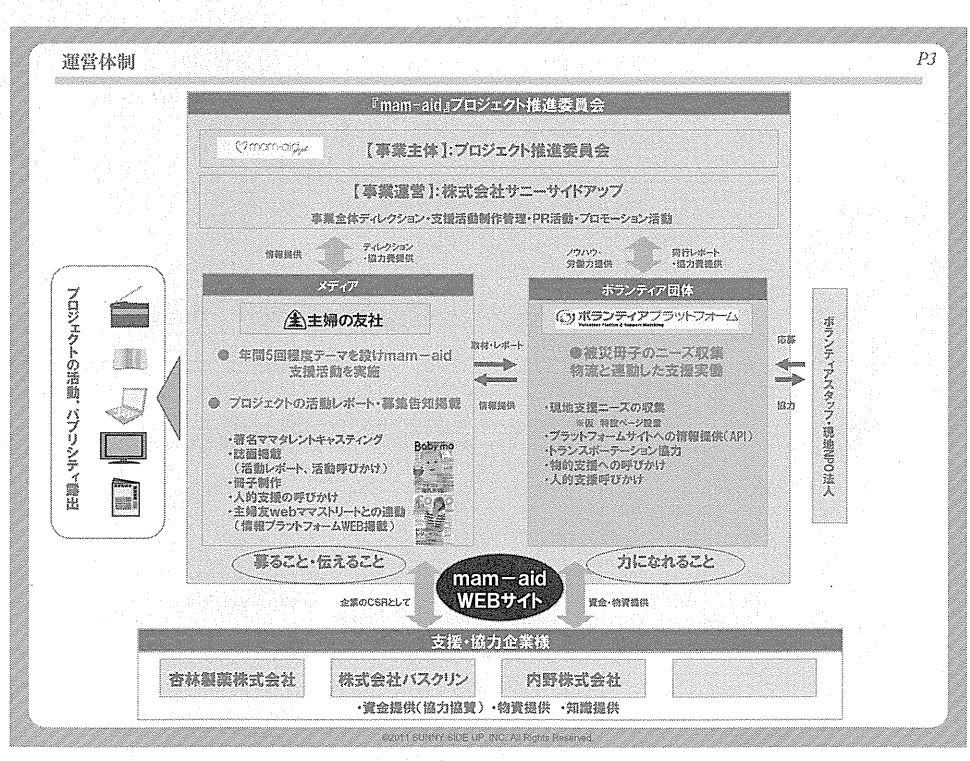
約2年間をめどに継続的な支援活動を行います。

これからの日本の未来を担う幼い命の成長を願い、支援を行う活動

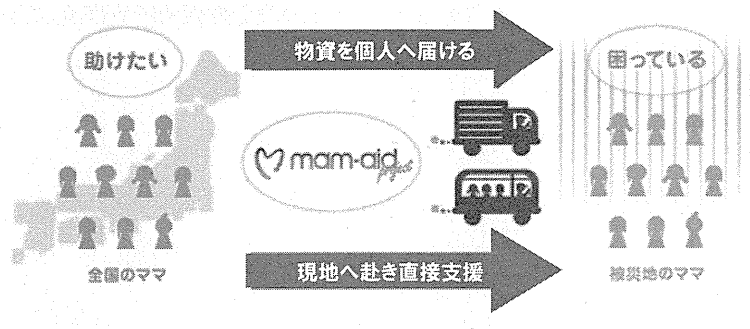
我々ができること、それはこの想いに共感する一人でも多くの賛同者を集め、それら人のネットワークを構築
具体的な支援活動を可能にする支援団体を設立し、このプロジェクトを通じて母と子の手助けを行うことです。

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.


支援内容
P2
『mam-aid』
～母子を支える3つの支援活動～
被災母子が必要とする物資の直接的な提供、
災害時における正しい衛生管理方など命を守り育てていくための適切な知識の提供、
そしてボランティア、雇用労働による労働力の提供により母と子の負担軽減となる支援を行います。
【支援活動①】
物資提供
育児常用品・育児消耗品・衛生生理管理用品・健康促進用品・
知育用品・知育玩具・玩具・文具・母子衣類、
寝具・生活復帰に必要な家庭用品・外出用品・その他
【支援活動②】
知識提供
育児に関する知識・衛生管理等の
専門知識を必要とするノウハウの提供
・支援企業の理念、商品・サービスへの理解深化
【支援活動③】
労働力提供
生活環境の復興、復帰など、
生活にかかわるお手伝いとして、ベビーシッターなどの人的派遣等
⇒ママのストレス軽減
⇒女性の雇用支援
©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.


運営体制
P3
『mam－aid』プロジェクト推進委員会
【事業主体】:プロジェクト推進委員会
【事業運営】:株式会社サニーサイドアップ
事業全体ディレクション・支援活動制作管理・PR活動・プロモーション活動
情報提供
ディレクション・協力費提供
ノウハウ・労働力提供
同行レポート・協力費提供
メディア
主婦の友社
● 年間5回程度テーマを設けmam－aid支援活動を実施
● プロジェクトの活動レポート・募集告知掲載
・著名ママタレントキャスティング
・誌面掲載（活動レポート、活動呼びかけ）
・冊子制作
・人的支援の呼びかけ
・主婦友webママストリートとの連動（情報プラットフォームWEB掲載）
取材・レポート
情報提供
ボランティア団体
ボランティアプラットフォーム
●被災母子のニーズ収集
物流と連動した支援実働
・現地支援ニースの収集
※仮 特設ページ設置
・プラットフォームサイトへの情報提供（API）
・トランスポーテーション協力
・物的支援への呼びかけ
・人的支援呼びかけ
応募
協力
プロジェクトの活動、パブリシティ露出
ボランティアスタッフ・現地NPO法人
暮らし・伝えること
力になれること
mam－aid WEBサイト
企業のCSRとして
資金・物資提供
支援・協力企業様
杏林製薬株式会社
株式会社バスクリン
内野株式会社
・資金提供（協力協賛）・物資提供 ・知識提供
©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

mam-aidプロジェクト 支援方法



～2つの方法で母子を支援～

A：全国のママ（個人）が被災地のママ（個人）へ直接物資を届ける支援
B：団体単位で被災地のママを助けに現地へシャトルバスでボランティアを派遣する支援

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

活動スケジュール

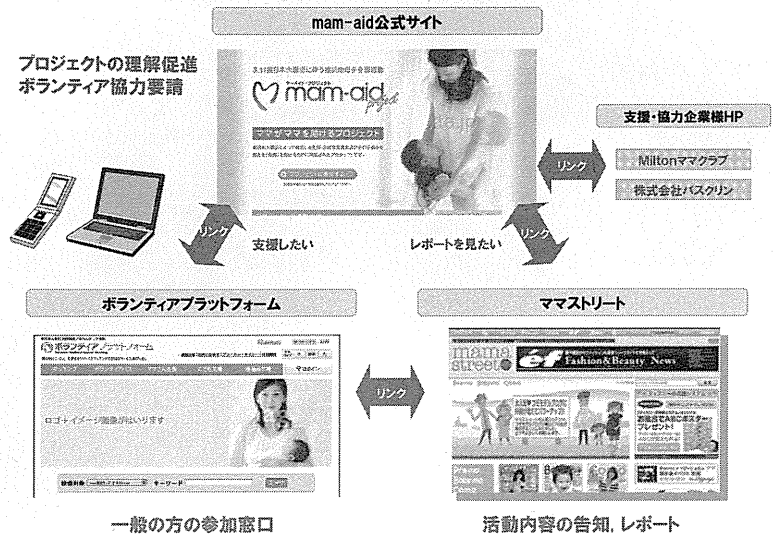
～母子を支える3つの支援活動+PRによる情報発信～

	6月		7月	8月	9月
概要	6/19 プロジェクト発足	6/24 第1回 プロジェクト総会	7/23 mam-aid 支援活動＃1	8/9 第2回 プロジェクト総会	9/18 mam-aid 支援活動＃2
支援活動 プロジェクトA	準備期間 → A：ボランティアプラットホームを通じた、被災地からのリクエストに対する活動 個人支援 ボランティアプラットフォームによって支援とニーズをマッチング				
支援活動 プロジェクトB	準備期間 → B：母子を支える施設への人的支援・必要設備を支援		支援活動1 現地でママ支援活動 ★7/23(土)@大磯町		支援活動2 現地でママ支援活動 ★9/18(日)@大磯町
支援活動 メディア		6/24～ パブリシティ	7/19～ パブリシティ	8/11 ベビモ 誌面掲載 / 8/28 COMO 誌面掲載	9/15 ベビモ 誌面掲載

活動2以降は支援要請に応じて様々な被災地へ支援を展開予定

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

WEBサイトの関係性



©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

mam-aid公式HP

■目的:
プロジェクトの全体構造を
理解させ、協力を求める

■役割:
・プロジェクトの窓口的役割
・プロジェクトの基本情報の説明と、参加方法を訴求
・各ステークホルダー毎の参加窓口へ誘導

■機能:
・プロジェクトの基本情報
(概要,プレスリリースへのリンク,関係各所の
クレジット,)
・「ボランティアプラットフォーム」へのリンク
・「ママストリート」へのリンク
・問い合わせ先の表示
・支援企業の関連サイトへのリンク
→ミルトン、バスクリン
・賛同者の表示

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

ボランティアプラットフォーム特設サイト

■目的:
被災者と支援者のマッチング

■役割:
・ボランティア参加の窓口として
・被災者のニーズを伝える掲示版として

■機能:
・支援ニーズの投稿機能
・検索投稿
・新着一覧表示
　さしあげます投稿内容
　物資募集の投稿内容
　ボランティアします投稿内容
　ボランティア募集投稿内容
・お役立ちリンクを設置
・ツイッター　ツイート一覧
支援マッチ新着投稿が流れる。動的コンテンツで頻繁に活動していることをイメージさせる。
・facbookライクボックス
支援マッチfacefook会員（約1500名）の一部顔写真一覧。※沢山いることをイメージさせる。

・新規登録
新規登録が可能。

・総投稿数⇒11,884件　・総マッチング数⇒11,419件
（※2011/8/24時点）

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

ママストリートサイト

■目的:
活動内容を知ってもらう

■役割:
・活動レポートの報告の場として
・ママ向けの編集記事等を伝える場として
・ボランティア参加の呼びかけの場として

■機能:
・現在調整中

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

7/23(土)第1回支援活動・実施報告

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

実施概要

実施名称	：	東日本大震災に伴う復興地子育て応援プロジェクト **マーメイドプロジェクト 第1回支援活動**
実施主旨	：	被災された乳児・未就学児童およびその子供らを抱える「ママ」向けの支援プロジェクト 『マーメイドプロジェクト』の第1回支援活動として、ママとお子様のための憩いの場を提供。 「ママ向け談話スペース」や「キッズの遊び場スペース」などを設け、ママとお子様に快適に くつろいでいただく。
実施日時	：	2011年7月23日(土)
実施会場	：	岩手県大槌町　和野　大槌第5仮設団地　サポートセンター (大槌第5地割字恵水講47番地1)
実施時間	：	12:00～15:00
実施内容	：	【常設】 ●絵本、おもちゃの遊び場スペース ●ホットコーヒー、ソフトドリンクなどのカフェサービス ●授乳スペース ●足つぼマッサージサービス ●おみやげスペース 【特別】 ●お子様向けおもちゃプレゼント会 ●セミナー「夏のリラックス&リフレッシュ入浴法」 担当：株式会社バスクリン ●お子様向け絵本の読書会 特別ボランティア：千秋 さん ●すいか割り 特別ボランティア：千秋 さん
支援企業	：	杏林製薬株式会社　株式会社バスクリン
企画制作	：	マーメイドプロジェクト推進委員会

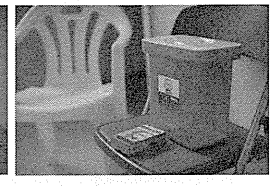
©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

実施風景 1

-足つぼマッサージ(きき湯診断)

足つぼマッサージを行い、症状に応じたきき湯をプレゼント。
地元/遠野のマッサージ師が参加。地域の雇用の創出にも貢献。

-ミルトンコーナー



授乳スペースで清潔な環境を維持するために配備。

-棒田明子さん

【プロフィール】
1968年、千葉県生まれ。旅行雑誌、育児雑誌の編集などを経て、(株)サン・アートで子ども関連の企画・制作を担当。妊娠中から1歳までの赤ちゃんにパパママが詩を贈る「トツキトウカ」プロジェクトも手掛ける。著書に「祖父母に孫をあずける賢い100の方法―祖父母も孫もママもみんなハッピー」、日本助産師会発行「おまごBOOK」の編集も担当した。

ママの相談相手としてボランティア参加

-メーリングリストへの呼びかけ

-60部程度配布
-現在(7人参加)

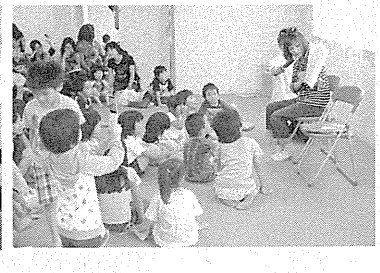
当日配布した参加促進のためのチラシ

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

実施風景 2

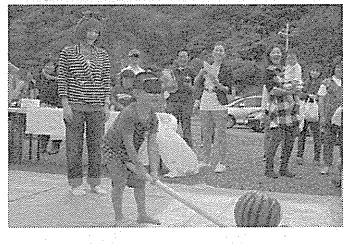
-千秋さん登壇

-千秋さんの読書会



読書会に聞き入る子供たち

-すいか割り

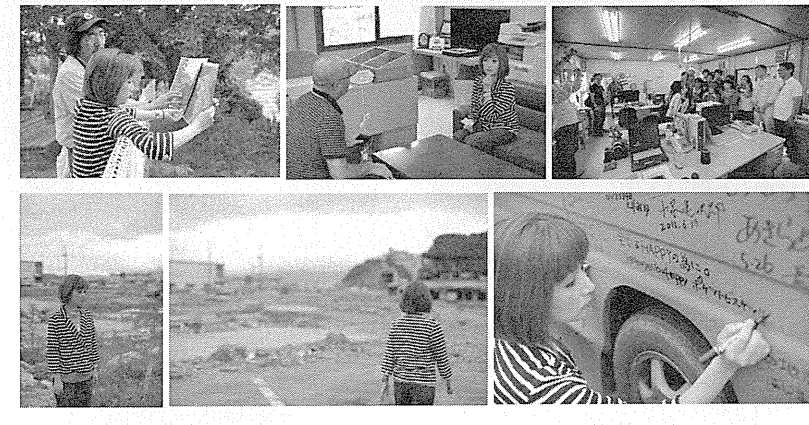


スイカ割りは大盛況

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

実施風景 3

-大槌町役場を訪問する千秋さん



自分が赴くことで、こんなに現地の方に喜んでもらえて、少しでもパワーを与えることができたなら、本当に心から「芸能人をやっていて良かった！」と思いました。現地のママたちと、これからもつながっていたい。また力になりたいです。

（千秋さんコメント）

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

広報・PRに関して

-露出キャプチャ

※テレビ5局、新聞4媒体、WEB10媒体

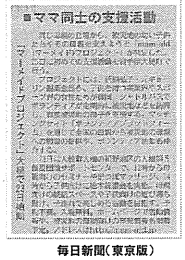
TV

テレビ岩手／ニュースプラス1サタデー

岩手めんこいテレビ／mitスーパーニュース

岩手朝日テレビ／ANNスーパーJチャンネル

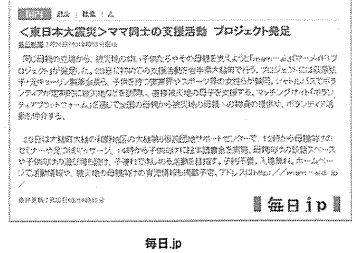
新聞



毎日新聞（東京版）

岩手日報

WEB

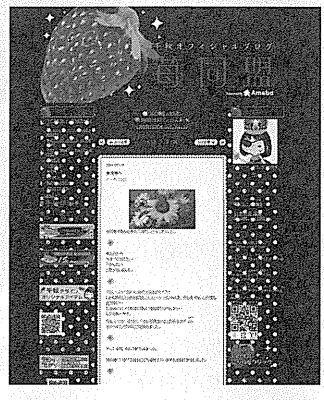


毎日.jp

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

広報・PRに関して

-ブログ



-ツイッター

フォロワー数7万人

次の大槌町を担うのは次世代のみんなだって役所の方々も言ってました。期待してるよ @larkycolt: @girls1777 大槌出身の高校3年生です！実家は流されてしまったんですけど家族は元気大好きな千秋ちゃんが地元に行っていてくれて元気をありがとう将来にむけて頑張ります！

こちらこそありがとう☆ @tokummama: @girls1777 今日はありがとう!大槌に来るだけでも大変なのに。子供を残してて亡くなったママ友の分までみんなで子供達の成長を見守っていきたいと思います。地震も津波もまたいつくるのかわからない中、大槌に来てくれて本当にありがとう!

千秋さんのブログ、ツイッターでmam-aidプロジェクトの活動状況を告知

当日活動に参加した人だけの暗号として「スイカ」とつぶやきの語尾につけてツイートすることを千秋さんが提案。
その主旨に賛同して、「スイカ」とつぶやくフォロワーが現れた。
さらに、twitterフォロワーの1人が南三陸へも来て欲しいと要望を出すツイートもあるなど。
mam-aidプロジェクトに対する好意的なコメントが数多く寄せられていた。

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

WEB状況報告

-公式HPアクセス状況（PV,UU）

▼mam-aid本サイト
mam-aid.jp

-通常時の訪問者数　:約40件／日
-最も訪問者数の多い日　:1100件（7/21実績）

▼ボランティアプラットフォーム内特設ページ
http://b.volunteer-platform.org/mamaid/

-通常時の訪問者数　:約60件／日
-最も訪問者数の多い日　:250件（7/21実績）

-ボランティアプラットフォーム支援状況

▼助けたい（全国→被災地）
物資　:91件
ボランティア　:459件

▼困っています（被災地→全国）
物資　:37件
ボランティア　:70件

ボランティアプラットフォーム全体では9割以上のマッチング率です。

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

現場ママの声

「産後2週間で震災にあい、実家が津波で流されました。」
　病気もせず、元気に育ってくれている2人の子どもが心の支えです。
「こういったイベントがあると、生活に楽しみができるので、嬉しいです。」
「子どもが楽しそうにしているので、良かったです。」

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

大槌町役場の方の声

-福祉課、藤原早紀さんコメント

私も娘(1歳)を連れて参加させていただきましたが、気分転換にもなり、とても楽しかったです。千秋さんにお会いできたのも嬉しかった！幼稚園や保育園に子供を通わせていないと、ママ同士が集まるきっかけがほとんど無いので、こういうイベントを通じてママ同士コミュニケーションをとれるといいですね。

-生涯学習課　課長、佐々木健さんコメント

180名という人数が多いか少ないかはにわかに判断しにくいが、呼びかけに対して、反応してくれた人がいたということは1つの大きな評価。求めている人が「いる」ことが分かったし、順繰りに 子供が生まれてくることを考えるとその「数」も増えていくだろう。行っていることの成果・結果・効果が見えてくるのはまだ先なのかもしれないが、何かアクションをすることで、何かが生まれ、発展につながることは間違いないと思う。そういう意味でも、今後のマーメイドプロジェクトにも期待したい。

©2011 SUNNY SIDE UP, INC. All Rights Reserved.

平成23年度厚生労働科学研究補助金（政策科学推進事業）
「住民主体のソーシャル・キャピタル形成活動プロセスと支援体制に関する介入実証研究」
分担研究報告書

ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動プロセスと保健師の支援内容

分担研究者　杉田　由加里　国立保健医療科学院生涯健康研究部
研究協力者　石川　麻衣　高知県立大学看護学部

研究要旨

ソーシャル・キャピタルの醸成に資する 長期にわたるボランティア住民の活動プロセスを支える保健師の関わりと保健師側の体制を明らかにする。

ボランティア住民の活動が3年以上継続している自治体として3事例、計4名の保健師へ半構成的インタビューを実施した。X町の活動は、地域の身近な子育ての相談役と子育て支援ネットワークづくりを目的とした母子保健推進員活動、Y市の活動は、介護予防を目的とした身体機能の維持や住民の居場所として継続できる体操会場を運営するボランティア活動、Z町の活動は、健康管理事業の円滑な推進と地域住民の健康増進に関する協力を行う推進員活動であった。

どうなってほしいといったあるべき姿を持ち伝え続けること、活動の方向性がずれないように伴走する姿勢で関わることが大事であり、関わる保健師は、ボランティア住民から育てられている感覚を持ち続けるといった双方向性のある関係を築いていくことが重要である。複数の保健師で関わることが多いと考えられるので、担当保健師間での常日頃からの情報の共有だけでなく、気持ちや考えの共有ができる体制を整えることが必要であることが示唆された。

A. 研究目的

ソーシャル・キャピタルという概念は、アメリカ合衆国の政治学者 ロバート・パットナムが『Making Democracy Work』（邦訳『哲学する民主主義』）[1] の中で、イタリアの北部と南部で、州政府の統治効果に格差があるのは、ソーシャル・キャピタルの蓄積の違いによるものだと指摘したことに端を発し、多分野で急速に研究が進んでいる概念である。「ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴」であるとする定義が広く理解されており [2]、その効果に着目されている。健康の増進、教育成果の向上、近隣の治安の向上、経済的発展など有益な成果をもたらし、社会や個人の繁栄にとってその蓄積が重要である [3] とされている。

K[4] は、ソーシャル・キャピタルに関する国内外の文献を検討し、我が国における研究に対する意義を以下のように述べている。第一

に、世界に名だたる長寿国である我が国ならではの提案ができる可能性があること、第二に、日本国内でも見られるようになった所得・健康格差が我が国のソーシャル・キャピタルにどのような影響を与えているかといった視点。第三に、子育て支援活動、高齢者保健福祉活動、防犯パトロール等のコミュニティレベルにおける地域の力を最大限に引き出せるのではないかという希望、第四に、例えば児童虐待といった我が国の公衆衛生が直面している問題に対して解決の糸口を探すための一案を得られないかという期待と述べている。ソーシャル・キャピタルに関する先行研究を概観すると、ソーシャル・キャピタルを測定する尺度開発[5]、ソーシャル・キャピタルに関連する要因の検討[6]、について複数の論文が報告されている。しかし、ソーシャル・キャピタルの醸成に資する支援方法やスキルに関しては、実践報告にとどまっている。

行政職員である保健師は、地域住民の健康ニーズに対して直接的に関わる一方で、住民同士の支え合いが促進されるように子育て支援活動や高齢者保健福祉活動を展開するといった手法もとる。ソーシャル・キャピタルの醸成に関わる保健師の実践に関する報告は少なく、より精緻な分析の必要性が指摘されている[7]。

そこで、本研究では、長期にわたるボランティア住民に対する保健師の支援の内容と受けた影響に関し、複数の事例よりその共通項を明らかにすることで、ソーシャル・キャピタルの醸成に資する保健師の看護技術の一端を明らかにしたいと考えた。

B. 研究方法

1. 研究参加者

地域の保健推進員や小児への訪問員、地域の健康を考える会のメンバーといったボランティア住民の活動が3年以上継続している自治体を選定した。そのボランティア住民の活動を1年以上支援した経験を有している行政保健師を研究参加者とした。

2. 調査依頼と承諾を得る方法

本研究組織の機縁により候補地を選定した。内諾を得られた候補者に対して、改めて文書で研究依頼し、承諾を得た。研究参加者の意向を考慮し、所属の長へも文書をもって依頼し、研究参加者の本研究への参加のしやすさを確保した。

3. 調査データの収集方法

研究参加者に対して、60～90分の個別あるいはグループでの半構成的インタビューを、複数回のインタビュー経験がある本研究組織のメンバーが実施した。インタビュー実施の際は、研究参加者にとって業務に支障のでない場所、時間帯に留意した。(平成23年12月～24年3月)

なお、関連する書類の閲覧を可能な範囲で依頼し、インタビューの補助データとした。

4. 調査項目

インタビューガイドは、①ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動の経過、②活動の経過の中で、保健師として誰にどのように働きかけたのか、③保健師が働きかけたことによる、ボランティアメンバーや地域の住民の反応をどのように捉えているか、④ボランティア住民の活動の成果

をどのように捉えているか、⑤ ボランティア住民の活動に関わる保健師側の体制、引き継ぎ時における工夫など、⑥属性（保健師としての経験年数、職位、このボランティア住民の活動に関わっている期間）とした。

5. 分析方法

インタビュー内容を逐語録におこし、インタビュー時に閲覧および受領した資料をもとに、ボランティア住民の活動経過を先行研究[8]を参考に時系列にまとめた。活動に対して保健師が実施した支援内容や支援を実施する上で必要と捉えていた意識や姿勢、保健師側の体制に関して、意味内容が理解できるように整理した。

6. 倫理的配慮

本調査実施にあたり、研究協力者へ研究の主旨を文書と口頭で説明し、賛同が得られた場合に、調査対象者とした。また、研究協力者の意向を確認しながら、研究協力者の所属の長へ、文書で研究の主旨説明をし、研究協力者が研究に参加しやすいように配慮した。インタビュー内容の録音の諾否、研究途中でも研究の参加を取り消せること、個人名だけでなく自治体名の匿名化といった個人情報の保護に努めること等に関して、研究者の所属機関の倫理審査委員会の承認を得た（承認番号 NIPH－I,BRA＃12001）。

C. 研究結果

1. 研究参加者の概要（表 1）

協力の得られた自治体は 3 個所、1 市、2 町であった。1 自治体のみが 2 名の参加であり、計 4 名の研究参加者であった。

2. ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動

ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動概要（表 2）と活動経過（表 3）について、自治体ごとに紹介する。

1）X 町における活動

平成 5 年までの準備の期間を経て、平成 6 年にスタートさせ、現在も継続している活動であり、地域の身近な子育ての相談役と子育て支援ネットワークづくりを目的とした母子保健推進員活動であった。

スタートさせた当初は、母子事業へのお手伝い的な協力を依頼していたが、その協力をとおして、母子保健推進員が母親個々に関わる必要性を認識し、先進事例の視察を経て、声かけ訪問を開始した。

母子事業への協力と並行して、妊娠 8 カ月，生後 3 ヵ月（こんにちは赤ちゃん訪問事業），10 ヵ月，2 歳までの計 4 回の声掛け訪問とその後の親子への呼びかけを実施する中で、「育児おしゃべり会」といった育児支援グループを企画・運営するようになった。

声かけ訪問後の推進員と母との普段の生活の中での交流だけでなく、民生委員等とともに子育て支援事業を実施したり、育児グループでは自治会の役員との連携が広がるといった、育児を地域で支援している他団体へ波及し、子育てのネットワークが拡大していった。

2）Y 市における活動

平成 14 年に介護予防を目的としたモデル事業を実施し、事業の目的を達成していくには、体操会場を運営するボランティア住民の育成が必要と考えスタートした活動であった。

平成15年度の目標数は3年間で20会場であったが、17年度末には、80会場に増え、調査時点（平成23年末）では、288会場に増えた。それぞれの会場ではお世話役の住民が会場の準備・管理を行い、サポーターが参加者を支援する形をとっている。近所の閉じこもりがちな高齢者を誘ったり、会場へ来なくなった人についてのマップを作成するなど、アウトリーチ的な活動につながることも展開している。

地域住民主体で行う体操事業の実施をきっかけに、地域の見守り支援や認知症の勉強会の開催、近所の支えあいに発展していった。

3）Z町における活動

昭和46年に結成され、推進員の活動を通じて、健康学習を行ってきている。任期は2年であり、任期中、健康に関する学習をし、学んだことを活かして、健康に関して地域の中でリーダー的な存在として活動するといった内容であった。町の設置規則に位置づけられており、①生活習慣病予防等の知識の普及、②各種検診の受診勧奨、取りまとめ、③地区の健康相談・健康教育の計画・実施、④健診結果報告会への協力、⑤健康実践セミナーへの参加といった町の保健行政が地域全般に行き渡るように協力をするとされている。

特定健診への制度移行時、健診受診勧奨を自分たちで行える範囲として、国保受給者に対して行うことを町に提案するなど、会長のリーダーシップのもとに、それぞれの可能な範囲で活動を実施している。

推進員同士の連帯感が任期終了後も継続しており、それがネットワークとして発展し、OG会の活動に結びつき、さらなる活動につながっていった。

3. ボランティア住民の活動への保健師の関わり（表4）

1）ボランティア住民の活動への保健師の関わりと関わる上で必要と捉えていた意識・姿勢

ボランティア住民がどうなってほしい、住民がどうなってほしいという絵を自分の言葉で描く（X町）ことで、サポーターとして期待する役割を説明する、あらゆる健康教育の機会を活用し、課全体で、体操や介護予防について伝える（Y市）ことを実施していた。

参加している住民の趣旨に配慮しながら地域づくり活動が展開できるよう、ボランティアとのコミュニケーションをとる、大変なことばかり聞くのではなく、自分の会場の自慢についても意識的に聞いて、モチベーションが高まるようにする（Y市）といった、活動の方向性がずれないように関わっていた（X町）。

必ず会長と相談する、会長と二人三脚でやっていく（Z町）といった意識を持ちながら、リーダーになれる人材がリーダーシップをとれる体制を整える（Z町）といった、ボランティアリーダーを支える（X町）ように関わっていた。

関わる上で必要と捉えていた意識・姿勢として、始める前のデモンストレーションで、住民にやってもらいたいことを明確に伝え、どんな風に実施できるかを住民に考えてもらう（Y市）、住民が楽しそうな様子を見ながら、自分たちも楽しく仕事をしていく、それぞれが活動できる以上の活動を求めず、参加してくれるだけでありがたいという意識を持つ（Z町）といった、ボランティアから、人生の先輩として育てられている感覚を忘れないでい

ることが大事（X町）と捉えていた。

また、先輩の経験や事例を聞くことが、若い保健師にとって地域活動を学ぶいい機会になる、担当が変わってもどの保健師でも支援できるよう、それぞれの会場の様子を紙面で記録に残す（Y市）といった、担当保健師間での常日頃からの情報の共有だけでなく、気持ちや考えの共有が必要不可欠（X町）と捉えていた。

2）関わる保健師の体制

今年度D氏が管理職となり、後輩保健師に担当を引き継ぐことになり、引継ぎ後は、管理職の立場から支援している（Z町）、先輩保健師がサブ担当、後輩保健師が主担当となり、後輩保健師が入れ替わるようにしている（X町）といった先輩から後輩保健師への支援をするという体制が明らかとなった。

また、その一方で、若手保健師でも、最初はチームの保健師と複数で関わり、その後1人で関わり、同行者からアドバイスをもらうなど、若手に限らずどの保健師でも継続してサポートを受けられる体制を整えている（Y市）といった先輩、後輩の区別なく、支援し合う体制もあることが明らかとなった。

D. 考察

ソーシャル・キャピタルに資するボランティア住民の活動の継続を支えるには、以下の点が重要と考える。

1. 保健師の関わる姿勢

ボランティア住民がどうなってほしい、住民がどうなってほしいという絵を自分の言葉で描くこと、サポーターとして期待する役割を説明すること、必ず会長と相談する、会長と二人三脚でやっていくといった関わりを実施していた。このことは、関わる保健師は、どうなってほしいといったあるべき姿を持ち、伝え続けることが大事であり、活動の方向性がずれないように伴走する姿勢で関わることの必要性を示唆していると考える。

ソーシャル・キャピタルにはプラス面だけでなく、マイナス面もあることが指摘されている[8]。マイナス面の一つとして、行政がその住民の福祉に対する責任を放棄することを正当化する「道具」とすることである。ボランティア住民の活動が軌道に乗ったから、保健師の関わりを無くすのではなく、ボランティア住民の活動に合わせながら伴走する姿勢が重要かつ必要であると考える。

2. ボランティア住民との双方向性のある関係の構築

住民にやってもらいたいことを明確に伝え、どんな風に実施できるかを住民に考えてもらうことや、住民が楽しそうな様子を見ながら、自分たちも楽しく仕事をしていく、それぞれが活動できる以上の活動を求めず、参加してくれるだけでありがたいという意識を持つこと、ボランティアから、人生の先輩として育てられている感覚を忘れないでいることが大事と捉えていた。

先行研究[8]では、住民組織活動が地域づくりに発展する全過程における保健師の支援内容として、“住民との信頼関係を維持する”“住民の主体性を引き出す”“住民とともに活動する”“住民のペースを尊重する”“住民と地域を結び付ける”“住民と社会資源を結びつける”等が明らかにされている。本研究で得られた上記の知見は、これら先行研究で明らかにな

った支援内容を実施する上での保健師としての姿勢にあたると考えられ、関わる保健師は、ボランティア住民から育てられている感覚を持ち続けるといった双方向性のある関係を築いていくことが重要であると示唆された。この双方向性のある関係を築く、つまり、保健師とボランティア住民間の対等な「育ち・育てられる関係性を築いていく」ことで、その先のボランティア住民と地域住民との関係性も豊かになっていくのではないかと考えられた。

3. 関わる保健師側の要因への示唆

行政保健師は、ある 1 つの活動に継続して関わっていられる可能性は低く、いずれは次の担当者へ引き継いでいかなければならないことが多い。本研究で取り上げたような長い年月の活動を支えていくには、意図した保健師側の組織的な体制構築が重要と考える。

本研究では、活動を紙面に記録として残すこと、担当保健師間での常日頃からの情報の共有だけでなく、気持ちや考えの共有が必要不可欠と捉えていた。それには、先輩から後輩保健師への支援的な関わりで業務を遂行していくだけでなく、先輩、後輩の区別なく、支援し合う体制といった、若手に限らずどの保健師でも継続してサポートを受けられる体制を整えることも効果的な要因であることが示唆された。

E. 結論

本研究では、長期にわたるボランティア住民に対する保健師の支援の内容と受けた影響に関し、複数の事例よりその共通項を明らかにすることで、ソーシャル・キャピタルの醸成に資する保健師の看護技術の一端を明らかにした。すなわち、どうなってほしいといったあるべき姿を持ち伝え続けること、活動の方向性がずれないように伴走する姿勢で関わることが大事であり、関わる保健師は、ボランティア住民から育てられている感覚を持ち続けるといった双方向性のある関係を築いていくことが重要である。複数の保健師で関わることが多いと考えられるので、担当保健師間での常日頃からの情報の共有だけでなく、気持ちや考えの共有ができる体制を整えることが必要であることが示唆された。

本研究で示された知見は、3 事例と少ない事例から導き出されたものであり、今後さらに多様な調査事例をふやすことが必要と考える。また、支援する保健師側だけでなく、ボランティア住民への調査も必要と考える。

＜謝辞＞

本研究にご協力いただきました、各自治体の保健師の皆様方に厚くお礼申し上げます。

F. 研究発表

杉田由加里，石川麻衣：A 町におけるソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動プロセスと保健師の支援内容，文化看護学会；2012 年 3 月；千葉，文化看護学会第 4 回学術集会抄録集，p.17

G. 知的財産の出願・登録状況

なし

【引用文献】

1) ロバート・パットナム：哲学する民主主義，NTT 出版，2001.

2) 草野篤子：草野篤子(編)，世代間交流学の創造—無縁社会から多世代間交流型社会実現のために，あけび書房，2010.

3) 内閣府国民生活局：ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環をもとめて，国立印刷局，pp2 - 3，2003.

4) K 美也子：ソーシャル・キャピタル　公衆衛生学分野への導入と欧米における議論より，保健医療科学 57（3），pp252-265，2008.

5)（例えば、）大賀英史他：地区単位のソーシャル・キャピタルの測定尺度の妥当性に関する検討　エコメトリックな視点による「近隣効果尺度」の日本語版の開発，厚生の指標 57（15），pp32-38，2010.

6) 藤澤由和他：ソーシャル・キャピタルと健康の関連性に関する予備的研究，新潟医療福祉学会誌 4（2），pp82-88，2005.

7) 今村晴彦他：【ソーシャル・キャピタル　保健活動へのヒント】地区組織活動についての全国調査結果から　ソーシャル・キャピタルを醸成する保健師活動へのヒント，保健師ジャーナル 67（2），pp118-126，2011.

8) 中山貴美子：住民組織活動が地域づくりに発展するための保健師の支援内容の特徴，日本地域看護学会誌 11（2），pp7-14，2008.

8) イチロー・カワチ他：ソーシャル・キャピタルと健康，日本評論社，pp36-40，2008.

『ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の
活動プロセスと保健師の支援内容』

参考資料

表１　研究参加者
表２　ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動概要
表３　ソーシャル・キャピタルの醸成に資するボランティア住民の活動経過
表４　ボアンティア住民の活動への保健師の関わり

表１　研究参加者

自治体 ID	自治体概要	参加者 ID	保健師経験年数	従事年数	職位
X(町)	人口：約 16,000 人 総面積：6.56k ㎡ 年間出生数 160 人（平成 23 年度）	A 氏	24	20	主幹
		B 氏	6	1	保健師
Y(市)	人口：約 340,000 人(平成 23 年度) 総面積：309.22k ㎡(平成 23 年度) 年間出生数 2900 人（平成 22 年度） 高齢化率 23.3%(平成 23 年度)	C 氏	8	3	技師
Z(町)	人口：約 15,000 人 総面積：58.78k ㎡ 年間出生数 120 人 高齢化率 22.1%(平成 23 年度)	D 氏	24	24＊	係長

＊事業担当は 19 年